

第45回人権講演会

講師 渡部 陽一さん（戦場カメラマン）

戦場の現場から祈りを捧ぐ
～命の大切さ 互いを愛し、敬いあうこと～

2024.8.20

小山市立文化センターにて開催



戦争というものは、子どもたちの学び場を破壊するだけでなく、必ず小さな幼い命を当たり前のように奪っていました。

戦場という極限に立たされている小さな子どもたちが、一日一日生き延びていく最後の力。それはどんなときでも家族・友人いつもみんな一緒。必ず家族や友人が近くにいてくれることで限られた食料を子どもたちに分け与えていく。数少ない薬をより小さな子ども達に優先する…。



戦争とは、お互いが武器を取り合って激しく向かい合うことで止めるのではなく、一本のペンと一冊の教科書と一人の先生がいれば、子どもたちの基礎教育の基盤を固めることができる。世界情勢を変えていくはじめての一步の原動力は教育の力にあることを、マララさん*はメッセージとして世界の子子どもたちに送っていました。

悲しみと残虐に満ちた戦争というものを、カメラマンとして写真でたくさんの方々に届けることができなかつたとき、そこで行われた残酷な戦争というものになかつたことになってしまう。

僕には夢があります。少しでも戦いがおさまったら、世界中で回った学校の場所に再び戻り、子どもたちの授業風景や遊んでいる表情を記録に残す「学校カメラマン」になることが、僕の最大の願いです。

*マララ・ユスフザイ…女の子への教育の大切さを訴えるパキスタン出身の活動家。ノーベル平和賞を最年少（17歳）で受賞。

参加された皆様の感想より（抜粋）

〇自分たちが“当たり前”に生活できることのありがたさや、家族や仲間の大切さを改めて感じました。戦争の悲惨さや、戦場に住む子どもたちのこと、多くの尊い命が犠牲になっていることを自分の子どもにも伝え、今を大切にいっしょに考えていきたい。

〇平和の尊さ、ありがたさを改めて感じました。戦争の背景を知ることで見え方が変わりました。自分ごととして考えていきたい。

〇聴いて終わりではなく、今後につなげるためにも子どもたちと一緒に考えたい。



小山市人権相談
毎月第2金曜日

午前10時～午後3時（予約優先）
小山市役所6階 相談室6B
☎0285-22-9292

困ったら、一人で悩まず相談を！

人権についていっしょに考えてみませんか？

小山市 人権教育

検索



小山市教育委員会生涯学習課 ☎0285-22-9663 人権・男女共同参画課 ☎0285-22-9292

2024(令和6)年12月発行

ふれあいと思いやりのあるまち

おやま

～一人一人の違いを認め合い、豊かさとして共生できる社会へ～

「ひろ」と呼ばないで！

おかあさんも おじいちゃんも
ぼくを「ひろ」とよばないで



ぼくは「ひろき」だ！



お母さんやおじいちゃん、お兄ちゃんを「たつや」と呼ぶのに、どうして「ひろき」さんを「ひろ」と呼んでいたのでしょうか。また、「ひろき」さんは、それをどんな思いで聞いていたと思いますか？



小山市人権キャラクター
「つむりん」

小山市教育委員会

マイクロアグレッションについて考えてみませんか

【参考資料】『知らずに相手を傷つけてしまう言動「マイクロアグレッション」を防ぐには?』(日本財団のホームページより)、『マイクロアグレッションとは? 日常会話に潜む、他人を思わず傷つけてしまう危険性』(Voista Mediaのホームページより) ほか



「人権」の大切さを当たり前のように理解しているつもりでも、家族や友人、同僚などの親しい関係において、相手を一人の人間として尊重する意識がおろそかになってしまったことはありませんか？逆に、身近な人からかけられた言葉に気持ちがモヤモヤした経験はありませんか？

「ふつうは、〇〇〇だよね」
「〇〇〇は当たり前じゃん」
「〇〇〇しないなんて、ありえないよ」

「ふつう」に当てはまらない人は、どんな気持ちでこの言葉を聞くのでしょうか？
また、すべてが「ふつう」という人はいるのでしょうか？



えっへん！

お母さんの気持ち、わかったよ

ぼくだって、お母さんの子なのに、なんか軽く扱われてるように感じたんだ



ひろき、ごめんね
ひろきは小さくてかわいかったから
つい親しみをこめて「ひろ」って呼んじゃってた
今度からちゃんと「ひろき」と呼ぶね

！マイクロアグレッションとは…

「micro (マイクロ)」は「小さい」、 「aggression (アグレッション)」は「攻撃」という意味で、「相手に対する無理解」や「偏見による決めつけ」などから出てしまう言動や態度によって、相手をおとしめたり、傷つけたりしてしまうことです。

意図的かどうかにかかわらず、その言動の背景には、決めつけや思い込み、特定の集団に対する軽視や偏見が隠れていて、それが暗に表現されたメッセージとして相手に伝わります。

マイクロアグレッションは露骨な「差別」と違って見えにくく、見過ごされやすいですが、受けた本人にとっての影響は小さくなく、日常的にダメージが蓄積していく場合もあります。



はて？

モヤモヤ

これっておかしくない？

思い込み？
決めつけ？



だれかの ことじゃない！

これまでこうした「小さなことかもしれないけれど、心に引っかかる“モヤモヤ”」を表現する適当な言葉が広く知られていませんでした。そのため、受けた側は「自分が気にし過ぎなのかも……」などと考えてしまい、違和感や不快な感情を表に出すことをためらっていた方もいたのではないのでしょうか。

「マイクロアグレッション」という言葉の理解が広まることで、受ける側や周りの人たちがこの問題を指摘しやすくなり、発する側も自分の言動を見直すきっかけになるといいですね。



こんな言動をしていますか？されていますか？

国籍や人種に関するマイクロアグレッション

- 「〇〇人って、□□ですよね」
(ブラジル人だからサッカー上手いんでしょ)
- 「考え方が大胆で日本人離れしているね」
- 「英語話せないの？変だね」
- 「肌の色、私はまったく気にしないよ」
- 「鼻が高くてうらやましい」 など

性に関するマイクロアグレッション

- 「女性なのにすごいね」「もう少し女らしくしたら」
- 「しっかり旦那さんを支えるんだよ」
- 「男なんだからしっかりしないとダメだよ」
- 「(性的指向)*を決めつけて) 彼氏/彼女いないの?」
- 男性看護師を医師と決めつける
- 女性をアシスタントと決めつける など



その他のマイクロアグレッション

- 「若いのにもったいない」「若いから仕方ないよ」
- 「血液型は○型か。だから□□□なんだね」
- 「お兄ちゃんなんだからしっかりしなきゃ」
- 高齢者に対して、幼児を相手にしているような言葉で話す など



* 性的指向…自分が好きになる相手の性のこと

これらの言動は相手にどんなメッセージとして伝わるのだろう……



無自覚に相手を傷つけないために…

もし日頃の人間関係の中で、相手や第三者の言動にモヤモヤしたとき、その違和感や不快だと思った事実に対して「気にし過ぎかも」と悩む必要はありません。むしろそれは、見過ごされやすい差別意識に気づくことができる感性があるということです。心から湧き出てきた「はて？」を大切にしましょう。

一方で、相手を傷つけないからといって、コミュニケーションを制限しては、相互理解は進みません。「会話したい」「気持ちを伝えたい」という気持ち自体は、決して悪いことではなく、むしろコミュニケーションなくして、相手を理解することはできません。

ただ、そのときに「自分の価値観を押しつけていないか」「相手の感情や考えを決めていないか」「尊厳を傷つける表現になっていないか」「属性*にとらわれずに、その人自身と向き合っているか」といったポイントで、自分の言動を見直すことが大切です。

*属性 (人の場合) …国籍・人種・性別・出身地・職業・年齢など、人を分ける際の基準になるもの



誰もが自分らしく生きられる社会へ